

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	神奈川県		学校名	神奈川県立城郷高等学校	
人権課題	女性	対象学年・ 取り扱った教科等	3年 総合的な探究の時間	時数等	1時間
目標・人権教育のねらい	自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることを実感するために、男性には理解しにくい女性の生理・PMSについて学ぶことをとおして、「だれもが暮らしやすい社会とは」について考える。				
実施した内容	「みんなが暮らしやすい社会について考える～生理・PMS～」10/17（火） 「より女性が生きやすく、暮らしやすく、働きやすい社会」の実現を掲げ、事業を展開している mederi株式会社の講師による、女性の体の変化についての講演				
工夫した点	・男性にはなかなか理解が難しい女性の体の変化（生理・PMS・妊娠・出産）を男女ともに学ぶことを通して、妊娠や出産などのライフサイクルについて自分事としてとらえられるようにした。				
他教科との 関連	保健体育（保健）の生涯の各段階における健康の分野での学習を深化し、ライフプランを考える機会とした。				
事業成果	・知識的側面：女性の体の変化（生理・PMS・妊娠・出産）、「正しい避妊法・性感染症」「自身の身体を知り、ライフプランを知る大切さ」を男女ともに学ぶことができた。 ・価値・態度的側面：「生殖年齢」「不妊」について興味を持ち、考える生徒が増えた。 ・技能的側面：男女平等社会の実現のために、何をすべきかを考える生徒が増えた。				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	神奈川県		学校名	神奈川県立城郷高等学校	
人権課題	高齢者	対象学年・ 取り扱った教科等	3年 総合的な探究の時間	時数等	1 時間
目標・人権教育のねらい	高齢者についての理解を深め、高齢者の尊厳を大切にしたい、みんなが暮らしやすい社会について考える				
実施した内容	「みんなが暮らしやすい社会について考える～認知症～」11/14（火） 「認知症に対する正しい理解を広めながら、選択肢を増やすことで認知症の概念を一新し、社会と豊かにつなぎたい」と考え事業を展開しているメディカル・ケア・サービス株式会社の講師による認知症についての基本的な知識と高齢者介護に関する講演				
工夫した点	・事前にGoogleFormで講師への質問と認知症についてアンケートを実施した。 ・クイズを採用し、生徒が参加型の講演会になるようにし、楽しく学べるようにした。				
他教科との 関連	家庭（家庭総合）の「人の一生と家族・家庭」で学ぶ内容のうち、高齢期に関して深く学ぶことにより、自分自身の課題として学べる機会となった。				
事業成果	・知識的側面：認知症に関する基本的な知識を身に付けた。 ・価値・態度的側面：「自分や自分の周りの人が認知症になったら」という観点から考えを深めることができた。 ・技能的側面：多世代共生について考える生徒が増えた。				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	神奈川県		学校名	神奈川県立城郷高等学校	
人権課題	障害者	対象学年・ 取り扱った教科等	1年、3年 ホームルーム活動	時数等	2時間
目標・人権教育のねらい	障がい者に対する基本的な考え方を身に付け、相互理解を深めることによって共生社会の実現に向けて、実際の学校生活で行動に移せるようにする。				
実施した内容	講話①「大胡田弁護士に聞いてみよう！」 講話②「多様性を尊重する社会づくりについて考えよう！」 障害者に対する一面的なとらえではなく、多様性を理解できるよう、全盲の弁護士として活躍中の大胡田さんによる講話を実施した。				
工夫した点	・事前にGoogleFormで講師への質問と共生社会についてアンケートを実施した。 ・事前アンケートの回答に際して、本校が「インクルーシブ教育実践推進校」であることを踏まえた回答を促した。 ・各クラスのパネラーを選出し、講師との対話をする場面を設けた。				
他教科との 関連	公共（1年）における共生に係る内容についてより深く知る機会とした。 倫理（3年）の目標である「他者と共に生きる主体としての自己の確立をうながす」にも資することができた。 政治・経済（3年）で触れる基本的な人権と関わらせて考える機会とした。				
事業成果	Google Formにて記述式の振り返りを実施した。 ・知識的側面：講演とパネルディスカッションを通して、障がいに対する理解を深めた。 ・価値・態度的側面：講演内容を聞き、周囲との関わり方を見つめ直そうとする生徒が増えた。 ・技能的側面：共生社会の実現のために、何をすべきかを考える生徒が増えた。				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	神奈川県		学校名	神奈川県立城郷高等学校	
人権課題	外国人	対象学年・ 取り扱った教科等	1年 総合的な探究の時間	時数等	3時間
目標・人権教育のねらい	○情報格差を防ぎ、人権を守るためにはどのような手立てが必要か検証し、「やさしい日本語」を用いた情報を比較・整理し、実生活に活用する力を養う。				
実施した内容	・二種類の公文書の情報を比較・整理し、全ての人々に正しい情報を伝えるためにはどのような工夫が必要か検証する。また、実生活において「やさしい日本語」「分かち書き」「多言語併記」などの工夫が用いられていることを学び、実際に活用する。（2時間）				
工夫した点	・ chatGPTにより生成した公文書の見本を用いて、それぞれの特徴や対象の違いを明確にした。 ・ 多様な立場の住民の心のカードを作り、相手の事情や立場、困り感を理解できるようにした。 ・ 「やさしい日本語」で書かれた防災ハンドブックや各種メディアの表記例を用いて、身の回りにある情報格差を防ぐ工夫や技術を具体的に学ぶ活動を取り入れた。				
他教科との 関連	「現代の国語」の情報の扱い方に関する事項と関連させ、より実践的に学ぶ機会とした。				
事業成果	・ 知識的側面：国語的観点から文書を分析し、全ての人々に正しい情報を伝えるために、様々な工夫が必要であることを多くの生徒が理解した。 ・ 価値・態度的側面：情報格差が生命・財産・権利を脅かす原因になることを学び、多くの生徒がこれを防ぐ意義を理解できた。 ・ 技能的側面：「やさしい日本語」「分かち書き」「多言語併記」「ルビ」「UDフォント」などを用いて、相手を想定して文書を作成する力を身に付けることができた。				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	神奈川県		学校名	神奈川県立城郷高等学校	
人権課題	インターネットによる 人権侵害	対象学年・ 取り扱った教科等	3年 理系選択科目 情報の表現と管理	時数等	4 時間
目標・人権教育のねらい	インターネットによる人権侵害について、その危険性を知り、メディアリテラシーを育む。				
実施した内容	・ SNSを通じて発生した、誹謗中傷の事例を調べ、その実態を報告するためのスライドを作成し、発表。SNSの活用について意見交換を行った。				
工夫した点	・ 班別に発表を行い、SNSの利用について気を付けるべき点やについて討論をした。				
他教科との 関連	1 年次に学んだ「社会と情報」で学んだ情報社会の課題と情報モラルに内容を深化し、インターネットによる人権侵害が、より身近に感じることができる機会とした。				
事業成果	・ 知識的側面：主体的に調べ学習を行うことで、インターネットの危険性について学ぶことができた。 ・ 価値・態度的側面：SNSの危険性を理解し、使用の際に他者のことを考えて行動したいと考える生徒が増えた。 ・ 技能的側面：SNSやインターネットを、正しく利用しようとする生徒が増えた。				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	神奈川県		学校名	神奈川県立城郷高等学校	
人権課題	子供	対象学年・ 取り扱った教科等	1年 特別活動 2年 論理国語 3年 家庭総合	時数等	14時間
目標・人権教育のねらい	・子どもの権利条約やユニセフについて学ぶことで、社会の現状に目を向け、自分ができることを考える。 ・同意の重要性と権利の性質を理解し、自他の人権を守るために何ができるかを考え、論理的に伝える力を身に付ける。 ・子どもの人権・福祉について調べ、発表をすることで理解を深める。				
実施した内容	・ユニセフキャラバンにおいて、ユニセフが作成した世界の子供たちのレポートを視聴し、世界の子供たちを取り巻く現状と、子どもの権利を守るためにどのような活動が展開されているかを学ぶ。 (1時間) ・論理国語において、すべてのやり取りに同意が不可欠であることと、日本国憲法に定められた権利の性質について学び、グループワークを通して自他の人権を守るための具体的な行動と台詞を作成することで共生社会の一員として必要な知識・価値・技能の向上を図った。(5時間) ・家庭総合において、「子どもが健やかに育つ環境」をテーマに、「集団保育」「出産と子育てのための法律」「子育てネットワーク」「子どもの権利」「児童虐待」「子どもの貧困」のグループに分かれて調べ、模造紙にまとめ、クラス内で発表と校内掲示も行った。(8時間)				
工夫した点	・ユニセフキャラバンで紹介された日本製の蚊帳や真鍮の水瓶を借り受けて、生徒昇降口で一定期間パネル展示を行い、実際に手で触れて体験できる機会を設けることで、より深く世界の子供多比の現状を理解できるようにした。 ・異なる事例を用意し、それぞれのグループでの取組を共有することで、「責任ある立場」「個人として守られるべき立場」において、どのような発言や行動ができるかを考えることができるようにした。 ・神奈川県・横浜市の子育て支援についても調べることで、シビックプライドを醸成した。				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

- ・「公共」の授業で学んだ「基本的人権」の根拠となる日本国憲法の条文を用いて、権利の性質を学ぶことで、関連を意識づけた。

事業成果

○ユニセフキャラバン

- ・知識的側面：学習後アンケート「現在の「世界の子どもたち」の状況について理解することができた。」
→とてもそう思う64.2%、まあそう思う35.3%。
- ・価値・態度的側面：学習後アンケートにおいて、「私たちの生活が多くの人権によって守られていることに気づき、権利が守られる環境が当たり前ではないことを知った。」という記述が多数見られた。
- ・技能的側面：これから「子どもの権利」を守るために自分ができることは何だと思うか。」という問いに対して、「募金をする。」「権利の存在を理解し、広める。」「子どもを尊重する。」という内容の記述が多数見られた。

○論理国語

- ・知識的側面：学習後アンケート「人権問題を解決するために必要な手段について理解しているか？」
→「必要な手段や方法を理解している。」が学習前1.6%から学習後48.6%に向上した。
- ・価値・態度的側面：「今後自分がすべきことは何か」
→「対話を続ける」「同意をとる」「権利を濫用しない」という記述が多く見られた。
- ・技能的側面：①学習後アンケート「人権問題を解決するために必要な手段について理解しているか？」
→「必要な手段を理解し、当事者の同意のもと適切に実行できる。」は学習前1.6%から学習後24.2%に向上した。
②推敲後の成果物では、当事者の同意の上、どのような行動が人権侵害に当たるかを明記し、自分自身が人権侵害解消のためにどのような立場・行動をとるかを明らかにしている記述が増加した。

○家庭総合

- ・知識的側面：子どもの健やかに育つ環境について知識を深めることができた。
- ・価値・態度的側面：自分の住んでいる地域の子育て支援について興味を持つ生徒が増えた。
- ・技能的側面：自分が調べた子どもの人権や福祉に関する情報を発信できるようになった。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	神奈川県		学校名	神奈川県立城郷高等学校	
人権課題	アイヌの人々	対象学年・ 取り扱った教科等	1年 公共 3年 政治・経済	時数等	2時間
目標・人権教育のねらい	人権課題として取り上げている「アイヌの人々」について、日本に存在する民族問題の歴史やその文化を学び、今日的課題として理解する。				
実施した内容	「アイヌ民族の文化と権利保障の歴史」 アイヌ民族の歴史に触れ、アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現させるための施策の推進に関する法律」が成立した背景を知る。アイヌ民族の誇りである文化や慣習についての調べ学習を行った。				
工夫した点	法令による権利保障という制度的な知識授与だけでなく、共生社会の実現に向けてアイヌ民族が守ってきた文化や慣習を実際に調べる活動を取り入れた。				
他教科との 関連	アイヌ民族の子守歌や、アイヌ民族の女性が風習として行ってきた入れ墨について触れることで、公民科ならず、芸術科の面からも人権問題に取り組めることを意識させた。				
事業成果	・ 知識的側面：アイヌ民族の存在認知は中学で学習するため授業前から8割を超えていたが、文化・風習についての知識理解も8割以上の生徒が理解できた。 ・ 価値・態度的側面：アイヌ民族の文化について、より知りたいと考える生徒が増えた。 ・ 技能的側面：自らの関心とアイヌ文化を比較することができるようになった。				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	神奈川県		学校名	神奈川県立城郷高等学校	
人権課題	その他（児童労働）	対象学年・ 取り扱った教科等	1年 総合的な探究の時間	時数等	2時間
目標・人権教育のねらい	国際協力やフェアトレードに関する講演会を通して、世界で起きている児童労働についての理解を深める。				
実施した内容	国際支援とフェアトレードに関する講演会（各1回）				
工夫した点	生徒に講演会内容を身近に感じてもらうために、講師の方に直接来校していただいた。 フェアトレードについては、生徒の関心があるチョコレートを題材にした。				
他教科との 関連	本校が取り組んでいるシチズンシップ教育にも関連付けて、横浜市の企業であるバニラビーンズチョコレート様に講演会を依頼した。				
事業成果	・ 知識的側面：まだ多くの国で児童労働が続く現状や学習機会を、確保できていない状況を、7割超の生徒が理解した。 ・ 価値・態度的側面：自分もフェアトレードや、国際支援に協力したいと答えた生徒が複数人いた。 ・ 技能的側面：世界の現状を理解することで、自らの生活に再度目を向ける生徒が増えた。				